

議員ならではの目線で地域のまつりを振り返る

収まりきらないコロナ禍でありましたが、今夏は悪条件が重なったことで本村盆祭と島まつりが中止となりました。衝撃を受けつつも、地域のまつりを振り返ってみたいと思います。

私はかねてから、「若郷

盆祭」は地域総出の賑わいと檜舞台を中心にした一体感があり、まさに地域社会のお手本であると思っていました。式根島でも、観光で多忙な夏期をずらして11月に「あきまつり」が開催されますが、全年齢層によるステージや会場の手作り感も相まって、心が暖まる祭りだと感じています。本村地区でも冬期の落ち着いた雰囲気の中で、提灯の誘われるような「師走祭り夜宮」にも風情を感じます。

さて、観光の忙しさや住民生活の都合によって過渡期を迎えている祭りではありますが、島まつり中止を

受けて若者が開催した「児童公園夕涼み会2023（以下、夕涼み会）」の姿勢に新しい希望を感じています。（表紙記事参照）



お金ではない
資本IIつながり

当村のような農山漁村社会では、お金がなくても、住民同士助け合える、できることを持ち寄れる豊かな関係性があることを私も実感できてきました。

このような人の信頼関係・つながりは、「社会関係資本」と呼ばれ、いわゆるお金の貨幣資本とは異なる人や地域の財産であるといえます。

社会関係資本には、大きく分けて3つあり、この視点で夕涼み会を見てみると、まさにうまく組み合わせて活動していることがわかります。

夕涼み会に見る3つのつながり

組織間・階層	水平(ヨコ)	地縁(タテも強い)
組織としての連携など	島の内外など水平なつながり	幼なじみなど強い絆
村役場や商工会関係者の協力(日々の業務などにも連携が活きる?)	地域おこし協力隊など外の力、医療関係や行政関係で新島に赴任してきた方	島出身の若者たち(やりたいことが実現できる島でUターンに期待!)



Uターンは一日にしてならず。関わる機会が大事

かつての島まつりで、住民からアイデアを試験的に募集して実施してもらったことがありました。夕涼み会の運営メンバーの一人、櫻井浩司君は、当時は大学生ボランティアサークルのメンバーとして仲間を連れて来島し、三郎浜で宝探しイベントを運営し



▲夕涼み会のスタッフたち(総勢35名ほど)。医療関係や行政関係で赴任した方々を交え、多様な人たちの参加が見られた

てくれました。帰省時に祭り出店や各種イベントにも参加してくれました。このような過程を経て、Uターンや今回の企画の参加につながったと思います。

島内外のつながりを組み合わせ、人が関わる機会を確保し、ともに育っていく必要があると思います。議員としても、その重要性を訴えつつ支援していきたいと思えます。